

# 二〇一一年を 転換点に できるか

国士学アナリスト  
大石久和  
Hisakazu Ohishi

よくなる」と思っている人が多数であったが、この年には「悪くなる」と思うという人と同人数になった。そして、その後は一貫して悪くなると考える人が増え続け、最近値が最悪という状況である。国民は日本社会の将来について悲観的になり始めたのである。

## ⑤ 地下鉄サリン事件が起こった

オウム真理教を信ずる若者が、教祖の指示により実に安易に大量殺戮に走るといふ事件が起こったのもこの年の三月であった。いわゆる受験戦争の勝利者として本来は科学の世界の指導者になるべき連中が、拒否すべき殺人の指示に唯々諾々と従ったのである。教育とは何かについて考えさせ、宗教の恐ろしさにも目を開かせることになった大事件であった。

## ⑥ 銀行や信用金庫が次々と破綻した

大蔵省の指導もあって倒産することがないと考えられていた銀行や金融機関が、次々と破綻した。この年の七月にはコスモ信用組合が、八月には兵庫銀行が銀行としては戦後初めて破綻した。また、このとき木津信用組合も経営破綻してしまつた。崩れるはずのないものが崩れていく様に、多くの人々は大いに混乱し将来への不安を感じたに違いない。

## 作

家の村上春樹氏は「九五五年日本は転換点を迎えました。あの年何かが日本を変えました。それまでの日本人は楽観的でした。裕福になり、幸福になっていましたから。でもそのころから、何か致命的なミスをしたのではないかと日本人は自問自答するようになったのです。」(クーリエ二〇一〇年十一月号)と書いている。作家の勘とは鋭いものだ。実際、この一九九五年はわが国の大転換点となった。それも残念ながら転落への転換点だったのだが、今度の三・一一は上昇への変化点とすることができるのだろうか。そのためには何が必要なのだろうか。以下に一九九五年には何が起こったのかをふり返って、これから二〇一一年以降を考えるきっかけとしたい。

※

## ① 生産年齢人口がピークだった

わが国の人口は明治以来一貫して増え、十五歳から六十四歳までという生産年齢人口も単調に増加してきた。ところが、一九九五年は総人口がまだ増加していたものの、生産年齢人口が約八千七百万人強でピークを迎えたのである。今もかなりの早さでこの年齢層人口は減り続けている。このとき社会を支える年齢層の減少が

## ⑦ 青島知事と横山知事が東京と大阪で誕生した

もとより、首長や議員を選ぶ選挙は、歌手やタレントの人気投票とは異なる。複雑で煩瑣な政治活動を、日常生活の忙しい国民が直接担うことができないから採用されている「代議」制度である。この二つの知事選挙は、国民が主権者責任も自覚せず、自分の権利を付託する重要な選挙を、まるで歌手の人気投票を行うように考え始めたということを示している。

青島知事は任期中東京のために何をしていたのだろうか。そもそも何を實現するために知事をねらったのか、それをわかりやすく語ったのか。彼を選んだ都民は、いまどう考えているのだろうか。冗談半分のような態度で選挙に臨めば、その結果は主権者自身が背負わなければならないのは当然のことなのだが。

## ⑧ 村山内閣の時代であった

前年の一九九四年六月、村山富市氏が率いる内閣が成立していた。憲法改正を党の基本方針とする政党と憲法死守の政党が、一つの内閣を組織するという前代未聞の出来事であった。国民は、政治はどのような信念で、われわれをどこへ導こうとしているのかと不安に感じたに違いない。

始まることの影響については、ほとんど話題にもならなかったが、この減少は社会の各部に深刻な影響を与えているのである。

## ② デフレが始まった

この年の六月、グリーンズパンは「日本が戦後初の本格的デフレに陥った」と語った。その後、わが国はデフレの淵に沈んだまま、まったく経済成長できずにいる。この年から今日まで、アメリカ経済は二倍以上の拡大を達成したが、わが国は一・〇すら維持できておらず、税収も伸び悩むどころか大きく減少したから歳出削減に追われ、それがさらにGDPの縮小と税収減を生むというサイクルに陥っている。

## ③ 阪神淡路大震災が起こった

地震が起きないといわれていた神戸で大地震が発生し、六千名以上の命が失われた。高度経済成長時代は、実に幸運なことに大災害がなかったが、やはりわれわれは災害国に暮らしていることをあらためて自覚させられたのである。

## ④ 内閣府世論調査「今後の生活の見通し」で「悪くなる」が「よくなる」と並んだ

内閣府は毎年世論調査を行い、今後の生活がよくなると思うかどうかを聞いている。この調査では、オイルショックのとき以外は、「今後は

## ⑨ 小選挙区制の時代が始まっていた

前年には小選挙区比例代表並立制を定めた公職選挙法が成立していた。そして翌年一九九六年十月には、最初の小選挙区制による衆議院選挙が行われたが、この年はその年の年であった。個人戦は苦手でグループ戦を好むわれわれに、勝負は必ず一対一となるこの制度が取り入れられたのである。

こうして、中選挙区制がもっていた、意欲のある新人が無所属から勝ち上がっていくという「選挙民による政治家の新陳代謝機能」を喪失したのである。

## ⑩ 円が一ドル七九円台に突入した

今回も震災後円が急騰があったが、阪神淡路大震災のあとも円が七九円台という円高となった。災害のため、政府が混乱して有効な通貨政策が打てないものと見くびられたのである。輸出立国と信じている国民は、憂鬱な気分が沈んだのであった。

※

こうして、勤労者の一人あたり名目賃金は、この頃から現在までに約一〇%も減少し、九五年には六〇万であった生活保護世帯は、直近の一四五万世帯にまで急増していったのである。